

件 名	高嶺小学校移転改築事業の入札不調に係る報告会
日 時	令和7年11月23日（日）10：00～11：45
場 所	農村環境改善センター 大ホール
対 応 者	當銘市長、徳元副市長 屋良教育長、宮里教育部長 教育総務課 施設係（又吉課長、平良施設係長、比嘉、賀数、平良） 教育総務課 総務係（伊敷主幹、上原）
参加者	41名（市民、自治会長、地権者、市議会議員 等）
事務局	高嶺小学校移転改築事業の入札不調に関する説明  -----質疑応答-----  市議会議員 ちょっといいですか。今の説明と配布された資料（委員会調査報告書）は、同一ではないですよね。いちいち報告書が頭に入るわけがないでしょう。報告書に書かれていることはいい。今説明されたことが、現実。現実を、資料にみせないとわからない。人間は機械じゃない。だから、今説明された資料を市民は望んでいる。報告書は望まれていない資料。説明した資料を提出してもらいたいと思います。 これ参考資料じゃない。参考資料だったら、市民に現実的に見せるべき、これが見えるのが政治。糸満市は情報の提供が不足している。私は議員として今まで何もわからない。今日説明を聞いて、初めてこういうことがなされていると今やっと気づいた。余計市民は知らない。だからですよ、市長、市長の責任ですよ。
事務局	ごめんなさい今、意見があったことですが、質疑の時間を始めて、質疑応答にて回答したいと思いますが、よろしいでしょうか？ それではこれより質疑応答に移りたいと思います。質問のある方は举手をお願いします。举手していただきましたらマイクをお渡ししますので、ご質問お願いします。 今の意見からまず回答させていただいてから、举手等でお願いしたいと思います。  今の質問に関しては、調査特別委員会の調査報告書というのをお配りしているのですが、それに加えて、今、パワーポイントで説明したものに関しても、後日提出して欲しいっていうご質問でありますでしょうか？
市議会議員	はい、そうです。
事務局	では後日、この資料に関しても皆さんにお伝えできるように対応したいと思います。ホームページ等で、閲覧できるようにしていきたいと思います。
市議会議員	前回の地域説明会と違って、市長も参加されてありがとうございます。私は、市議会議員として、特別調査委員会に参加しておりますが、今回の入札不調に関しては、糸満市全体での優先順位が私としては低かったのかなという印象を受けていまして、これが改善されない限りは、また高嶺小中一貫校の開校がスピード感を持って取り組めないのでないかなと思っているなかで、最近、高嶺中学校でコンクリートが剥離したりなど、様々な問題が起こっているので、これについて糸満市全体での優先順位も市長に伺いたいと思っておりますが、いかがでしょうか？
市長	すみません、着座のままでよろしいですか。ご質問ありがとうございます。優先順位は高いと思っています。それで去年の3月にも予算を計上させていただいております。ただ、それだけではなくいろいろありましたので、優先順位はあのときより高いということで、議会にも提案し予算を計上させていただいております。優先順位は高いと思っております。

市議会議員	今議会でも、例えば調査委員会報告書が提出されておりますので、原因究明と再発防止対策はもう見えてきたと思いますので、12月定例会でも何か形にして、優先度開校時期もしっかりと決めたりするなど、そういうアクション起こしていただきたいなと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。
事務局	はい。ご質問ありがとうございます。今の議員のご質問ですけど、開校時期については、現在高嶺小学校移転整備基本計画の検討委員会等のなかで、その事業費、それからスケジュールを検討しております。そのなかで、地域説明会にて地域に報告させていただくというふうに考えております。
市議会議員	再発防止の部分、もう一度見せてもらえますか。1と2があつたでしょう。対応策と説明がありますが、これ対応策になってないですよ。これ当たり前にやることなのですね。これ当たり前にやること以外に何か対応したことはあるのですか。今書いてあるもの全部普通。2番目、対応策にしてください。2も、これ当たり前にやることなのです。今までやってきたはずですよ。それがやってないってことは教育委員会のですね、大変な落ち度ですよね。これが本当に対応しているのですか。これは当たり前にやることですよ。それについてどうなのですか。
自治会長	教育委員会の対応策についてですね、教育長、教育長が回答してください。
事務局	すみません、私の方で回答させていただきます。ご質問ありがとうございます。今のご指摘の件、おっしゃる通り入札に関しての通常の流れの対策ではあります。ただ今回の高嶺小学校の入札不調に関しましては、設計金額と予算に非常に乖離があったということが一番の大きな原因です。我々教育委員会としましては、その予算確保ができなかつたっていうのが、今回入札不調で査定率を用いてですね、設計金額を算定したということに繋がっているということです。先ほども少し説明で触れていましたけども、なぜこのような予算と、事業費とその設計金額に乖離が出るかということなのですが、学校建設というのは非常に大きな費用がかかります。これについて冒頭の方で説明しましたけども、まず概算要求の際の事業費と、それからその後実際に設計して、その後、およその事業費で出てくるのですけども、その事業費とでは、だいぶその金額が上がっている。本来であれば、都度ですね、市長調整等を行いながら、こういう形で事業費が上がっていきますということを調整すべきですけども、やはりその辺の調整が少しうまくいくてなかったかな。ということだと思います。それによって教育委員会がこの程度の事業費が本当は必要ですということで、調整を何回かしておりますけども、なかなかこれが説明の方が、十分ではなかったということで、予算の確保ができなかつたということが、今回大きな要因です。これについては先ほど説明しましたように、基本設計の段階から予算が確保できるように、市長部局と調整を図っていきたいということでございます。
副市長	私の方から市の全体的な建設工事の設計書の作成の仕方について、少し補足させていただきます。例えば事務局から説明がありましたけども、今、物価上昇が非常に年々上がっていまして、こういう大型工事になった場合、設計書というのは大体入札の1年前に作ります。そのままの設計書でいくと物価上昇がだいぶ上がっていくですから、入札不調になる可能性がある。今、1年前に設計書を作るときに、物価上昇分を見込んで経費予算を計上しているところです。それで入札の前に、いろんな県の単価とか労務単価とかで、そのあたりの見直しが出てくるものですから、その幅が大きいこともあります、設計書プラス物価上昇を見て予算の確保をしているところでございます。
市議会議員	はい、皆さん、今のお答えはですね、答えになってしまん。糸満市だけが物価上昇があったのですか。これ同じ時期に、豊崎の小学校中学校は、できているんです。豊見城は物価上昇がなかったのか、そういうのは問題になっていない。糸満市の工事だけが過

	<p>剩だったっていうのは、それは考えられません、そんなことはないです。ですから皆さん、本当に最初からやる気がなかったのですよ。あんた方は。ですから、こういうことが起こるのですよ。その対応策は、もっと厳しく、なぜ査定率を60%にしたのか、その60%その事業費を作るために60%にしないといけないとなった経緯を、市長からぜひ答えてください。なぜ60%にしたのか、それをわからなかつたっていうのはおかしいのですよ。あるいは教育長それをはっきりさせてください。</p>
市長	<p>はい、ご質問ありがとうございます。査定率の件なのですけども、大変申し訳ないですけどもその当時、全然査定率のことは僕のところに入ってきていません。課題が上がったときに、60%とか話が出たのは、その後の9月議会の前に説明を受けていきますので、当時の査定率というのはわかつてない。もう一つの中では、金額の設定っていうのは、僕らはこれもプロセスで作っていますので、市長部局と教育委員会と関係部局との調整の中で、もっと綿密にしなければならないというのは、本当に課題ではあったと思います。今更の話になりますけど、申し訳ないですけども後々に来て、こうだったっていうことになってしまふと、もう取り返しがつかない。その時点での事業費は、要求通りつけていますけども、それがもうあとに引けない時だったりしたっていうのは、非常にちょっと財政局側もそうだと思いますが、結局自分のところに来るまでは、いろんなものが関わってきてていますので、そこで調整がきれいにされていなかつたのかな、というふうに思っております。こういうことがないように今現在も進めているところでございます。</p>
教育長	<p>はい皆さんおはようございます。教育委員会教育長屋良でございます。私につきましては令和5年の3月27日に教育長を拝命いたしまして、ちょうどこの話題が特別調査委員会でやっている最中ということでありまして、この調査委員会に出す資料とその中身の話については、その都度報告を受けておりましたが、ただ真実について私は後から聞いて、「そうだったのか。」っていうところであります。今日は今回出されたこの報告書を見ながら、私も一生懸命理解しながら、今度入札不調に至らないようにということで、再発防止をどうしていこうかなということを、今つくづく毎日考えている次第であります。まず子供たちが安心して、そして安全に楽しく元気に学校生活が送れる校舎を作れるかというところで、日々ですね、総務課施設係含めて、部長以下頑張っているところを今見守りながらやっているところです。今日もまた皆さんのご意見を聞きながら、それを踏まえて次の高嶺小学校改築の委員会に向かっていきたいと考えております。以上でございます。</p>
市議会議員	<p>おはようございます。今ご説明を聞いていると、なんか他人事のような話し方だと思います。僕も議員として解散前は百条委員会に携わっていくなかで、今こうやって報告書というものを出さざるを得なかつた。解散前にはもう出すようにという形で、結局は基本的に解説されてないと思ってはいるのですけど、出さざるを得なかつたっていうのが疑問です。先ほど別の議員からあったように、他の市町村では物価高騰の中で普通にそういうものができている。糸満市においても屋内運動場ブルペンまた市営住宅等に関しても満額予算がつけられて、さらに追加工事バンバンバンバンつけられている中で、なんでこの高嶺小学校中学校に関しては、給食センターも含めてですけど、できなかつたのかっていうことがそもそももの問題なのです。今このたくさん説明したところで、何の充実にもならない。そもそも前市長の上原昭市長のときは、「令和6年4月には開校します。」という感じで進めていたのですよ。そこを「市長が変わったからできなくなつた。」というところの、なぜできなくなったのか、昭市長がどういうふうに進めていて、予算をつけて、どこから補助金をもらってやろうとしていたのか、當銘真栄市長に代わって、「私がこうなつたから、こういうふうにできませんでした。」ということを説明するのが本来の義務だと思うのですよ。その辺どうですかね、説明できますか。</p>
市議会議員	そうだそうだ。

事務局	<p>はいご質問ありがとうございます。今議員のご質問ですけども、まず先ほどもスライドの方で少し説明をしましたが、まず概算事業費を出す際に、細かい設計がなされていませんので、おおよその概算要求での予算要求になっているということがまず一つ。それと、その後ですね百条委員会の中にも記載がありますけども、一部ですね、補助の対象外の部分が出てきて、国庫補助の取り付けが難しくなったということがあつて、その分の事業費をどこでカバーしていくかということで、いろいろ議論をさせていただきました。その中で物価高騰があったということで、その事業費と予算に乖離が生じてしまったというのが、やっぱり大きな原因かなというふうに考えています。その辺は先ほども申し上げていますけども、教育委員会として、市長の方にも説明が非常に足りなかつたということで、その部分が反省点というふうに考えております。</p>
市長	<p>はい質問ありがとうございます。議員は當銘市長に変わってから、これが止まったという話がありましたけれども、私も事業を止めるつもりではございません。当初はもうこの入札不調になった予算も計上して、進めるためにやらせていただいたというのをご理解いただきたいなと思っています。入札不調になって止まったのは、本当に申し訳ないと思いますけども、何か以前からわざと遅らせるためのことをやっているようなこと言われていますけども、我々としてはやはり子供たちの環境を整える意味では早急に進めないといけないということで、予算計上をさせていただいております。これは議会でも通っていると思います。先ほどブルペンにおいてはバンバンついているというお話がありましたが、バンバンついているわけではありません。そこは私達も議会に御提案をさせてもらって、通してもらっていますので、一概に僕らだけがバンバンつけて、「これだけよ。」というものではないと思っています。担当から説明を受けて、課題がありまして、そこだけが優先的にやっているっていうことはございませんのでご理解いただきたいなというふうに考えております。</p>
市議会議員	<p>別に怒らせるために言っているわけではなくて、前市政のときに、「令和6年4月にできますよ。」と言っていますが、真栄市長に変わってから、実際遅れていますよね。その話をしているのです。その遅れた中で、「できるって言われたものが何でできなくなつたのか、資料でこうなつたから難しくなつた。」という説明が欲しいって言っているのです。ここにいる皆様にぜひ見て欲しいのですけど、この資料の中身で一番大事な部分で参考人の方の言葉が載っているのですけど、その中で、先ほど市長が予算要求の満額回答とか議会でも答弁されているのですけど、実際この中に聞いている内容は、「要求額を認めてつけていたところではないと思う。」とか、そういった増額のような話の中で、実際市長たちが言うようなこの満額回答というものは、参考人の方々から多数そういうことはなかった。ありませんでした。ということがあるので、その辺をなぜこんな食い違いがあるのかっていうところをもう一度聞きたいです。はい。11ページのその他参考人質疑の内容です。</p>
事務局	<p>ご質問ありがとうございます。参考人質疑ですが、これについては非公開で行われています。参考人はそれぞれ単独で百条委員会の方に呼ばれて、質疑を受けていますので、この内容については、こちらの方では、どういった質疑でどういった回答したかというのは正直百条委員会に参加されていた方と、その証人として呼ばれた方以外にはわかりませんので、ここに書かれている以上のこととはちょっと申し上げられないということです。</p>
市議会議員	<p>書かれている中に、結局、先ほど60%、80%の査定をせざるを得なかつたっていうところは、やはり増額していただけない中で、減額、その予算に合わせたものを設計せざるを得なかつたっていうふうに言っているのですよ。結局これから新たに建てていこうという中で市長のお考えは30億プラス、何とか資材高騰を反映するっていうお話なのですが、今回当初の財政課の担当に聞いたところによると、実際はもう40億50億円かかりますよ。と話をしています。だから本当に今言ったように30億プラス、自分たちが抑</p>

	えてこのもうそもそも40億かかるものは30億抑えて、物価高騰・資材高騰の中でやります。本当にできるのかっていうのが、ちょっと不思議なのです。さらに言えば、去年より今、人件費もどんどん上がっている中でさらに膨らむのではないかというところで、実際どれぐらい金額がこれからかかってくるのか、って予想しているのかっていうのをちょっと聞きたいのです。
事務局	はいご質問ありがとうございます。事業費に関しましては、今現在この検討委員会の中で試算しておりますので、その中で、算定でき次第、ご報告をさせていただきたいというふうに考えております。
市議会議員	ありがとうございます。最後に、結局これだけ遅れてしまうってことは市民のみんな、そして子供たち、あらゆる税金というものが使われているっていうことを今一度もう一度考えてですね、今後しっかりと完成に向けて、本当にお願いをしておきたいと思います。
自治会長	皆さん、回答の言葉が多すぎてあまり意味がわかりません。具体的に端的に言葉少なめで、我々が聞いていることに対して真摯に答えてもらいたいと思います。質問いたします。僕含めですね、皆さんが思っているのは、まず高嶺小学校が令和6年度、これが10年に延びましたよね。まず10年は確実にできるのか。ということと、あとはこの令和6年に開校できなかつたことについての責任は、どなたが取るのか、そのときの教育委員会が査定した18億6000万が教育委員会から出てきたが、市長の判断で消したわけじゃないという、文言がありますけど、どこが出そうが、会社といえば、市長は社長さんです。会社のトップが責任取るのが当たり前なんのす。
市議会議員	そうだ。
自治会長	もうその時の教育長はいないから、「現在の教育長には責任取らせませんよ。」という話じゃないのですよ。いなければ誰が取るのかって話ですよ。ずっとそれに携わっている人一番トップが、経営者が変わろうが、そのトップは前の経営者がしでかしたもの全部責任取らなきゃいけないのです。なぜ取らないのですか。それを僕らは待っているのです。どなたの給与減額もない。あれだけ、設計料1億3000万ぐらいドブに捨てて誰もこれを謝らない。何のために僕ら一生懸命働いて税金払っているのですか。この尊い税金を何とも思わないのですか。公金ですよ。自分のお金だったら1億3000万捨てていいいですよ。自分のお金だったら。それと先ほど、議員からありましたけど、今後の対応策、改善策、当たり前の話です。物価上昇も鑑みて市長はもっと真剣にと言っていましたね。これまで真剣じゃなかつたのですか。理解できない。あんな文言並べて、あれは我々一般の人でも、あの対応文を作れます。皆さん専門家でしょ。公共工事をやる専門でしょ、なのにあれぐらいしかできない。あれぐらいしかできないのですか。本当にあれぐらいですよ。私から言わせると。真剣みが足りない。だからこれはね、誰も責任を取らなかつたという皆さんのモラルが壊れているのです。だから市役所では、この前不祥事もありましたね。捕まりましたね。高嶺小学校だけじゃないですよ。前の上原昭市長がやっていたのは、給食センターもありました。全部今ひっくり返していますよね。ネズミが出ていますね。新聞にも載って恥ずかしい話ですよ。なんで税金払っている市民は恥ずかしい思いをしないといけないですか。八重瀬とか南城の友達からネズミが出る給食センターは聞いたことないと言わされました。そこですよ。なぜ責任取らないのですか。責任とてください。こういうふうに責任取りましたというのを見せてください。なぜどちらないですか市長、教育長、今の教育長、何かあれば言ってください。端的に私の質問に答えて。取る、取らないでいいです。
市長	はい端的に申し上げます。役所内でどこまで責任を取るかっていうのも含めて、自分もトップとして、どのように責任を取るべきというのも確認して考えています。

	自治会長	取るのですか、取らないのですか。そこだけ聞きたいのです。
	市長	先ほど申し上げましたけども、これから協議しながら、どこからどこまでが責任の範囲であるかというのも含めて、自分が最終的にはトップとしてどのような責任をとっていくのか協議していくということでございます。
	自治会長	はい。教育長お願いします。
	教育長	はい、ありがとうございます。今責任を取る取らないというところで、私が責任取るべきなのかどうかっていうのも含めて、市長がおっしゃったように、その結果を待ちたいと思います。ただ今後については、やはり私としては、教育委員会のやるべきことをやっていく。というところをちゃんと見ながら、一緒に次の事業を完成させるというところがある意味責任を取るっていうところになるのかなと考えております。
	自治会長	わかりました。私がね、給与減額するよりも、令和10年開校を令和9年でできますよとか、そういうのが欲しいのです。要は責任取るということはそういうことですよ。期限は令和10年だけど、1ヶ月でも半年でも早く開校しますよと。それは4月が年度初めですから、それに合わせのかもしれませんけど、皆さんができる限りのことをやって、いろいろ勉強もされて、どういう予算を組めば、高嶺小学校ができるのか、教育が一番ですよ。明治政府も教育に力を入れたら日本は強くなったのですよ。高嶺校区、糸満も教育に力を入れればもっと強い基盤が出来上がって、優秀な人材が輩出して、糸満市はもつと発展しますよ。我々よりもっと頭のいい人が出る。だから1日でも早く開校するのが大事なこと。以上。
	市長	はいご質問ありがとうございます。ご提言をいただきましてありがとうございます。開校に向けては、僕らの方からも教育委員会とも指示しているし、指示だけでは駄目なので、僕も一緒になって従来の10年に向けて全力で取り組むということさせていただいております。ただ努力はしますけども、地権者がいたりいろんな形がありますので、調整等が必要となってきますので、ぜひ地域の方々のお力添え、協力もいただかなければ前に進まないところがあります。農振除外とかいろいろなものが関わってきます。給食センターのお話もありましたけども、本来であればこの場で絶対やりたいというのはありました。ただ、課題があったからこの課題をどう一つでも解消していくかっていうを考えながらやらないと、課題があるのにそこに作ってしまうと、その後っていうのが。課題をそのままにし、また予算をつけたりして、いろんなことやっていると、後戻りができなくなりますので、そこは大変申し訳ないですけど理解していただきたいなと思っています。僕らとしても、わざと遅らせているわけではない。わざとネズミを放置するわけではありませんので、そこは子供たちの環境は早めに整えるように努力し、やっていきます。僕はネズミが出たときもすぐ指示していますので、そういうことがないように全力で取り組んでください。ということをさせていただいております。本当にご指摘ありがとうございます。
	教育長	はいありがとうございます。思いは一緒だと思います。一緒だと思いますではなくて、一緒でございます。やっぱり市内どの学校ではなくて、全部の学校の子供たちの環境を整えるというのは絶対条件でありますし、もちろん高嶺小学校の子供達、先生方、保護者、地域の皆様にはご迷惑をおかけしているっていうのも重々承知しており、さらに気にかけながら今取り組んでいるところであります。開校については10年というのがあるのですけれども、やはりここはしっかりと慎重に今、財政部局とも市長部局との今の段階からやり取りをしながら、反省を生かしてやっております。高嶺小学校移転整備事業の基本計画の策定に向けても、幹事会、委員会そして地域説明会を繰り返しながら、計画を作っていくかないといけないと思っておりますので、そのスケジュールについては

	策定委員会の中で、決定しながらやっていますので、その辺をご理解いただきたいと思っております。以上です。
市議会議員	おはようございます。今日はこのような機会を作っていただきまして、ありがとうございます。まず一つ、住民説明会の告知がすごく少ない。とっても弱い。私も今回あるというふうに聞いたのは、つい先日高嶺小学校に子供さんを通わす親御さんが、どうやら住民説明会あるらしいよとそれを聞いて、私達も人づてに聞いているから何がベースかわからない。これは入札不調に関する説明会を開くということで、高嶺小中学校に関わることだから、もっと大々的にやつたらいいのにと思います。私が教育委員会に訪ねまして、そうすると「ホームページに載っています。」というふうに聞きまして、ホームページを探しますとあるということで、まず高嶺小中学校の保護者がまず知らなきやいけないことですよね。これまでの経緯がどうしてこうなっているかっていうことで、数ヶ月前に小・中学校をベースから考え方を変えなきやいけないということの説明会が市役所がありました。本来だったら、これまでうまくいってなかったことを、まず先に説明してから、小中学校をこんなふうに考え方を変えなければいけません。という段階に踏んだ方が、本当はわかりやすかったのではないかな。と思っているのですけれども、住民説明会するにあたって、もう少し大きく大々的にやっていただきたいのと、保護者の方が言っていましたのは、一斉送信メールのような形、例えば使っているアプリを通して住民説明会をやりますと、もっと大きくしなければ誰も気づかない。知りたくても知ることができない。そもそも複雑でとても煩雑でわからないのに、ちゃんとそれをしっかりとやっていただかないと、市役所の皆様の努力も姿勢も伝わらないと思っています。今回渡されました委員会の説明の中の12ページ、市長への質疑の内容というところにありますと、令和4年所当初、予算要求については、事業費21億423万っていうふうに書かれておりますが、その後に18億に減額されている。この減額された理由っていうのは、教育委員会からそのように要求があったということで、減額の理由は明確にはなっておりません。減額になったところが、ここで既に3億失われている。3億失われた。この当初3億でも足りなかつたかもしれませんけれども、なぜ減額になったということに関して、教育委員会が明確にしていただきたいということと、先ほどちょっと携帯電話で見たら令和4年の教育予算糸満市の教育予算は8.7%でした。25億9600万取られておりますけれども翌年、令和5年の教育予算は6.9%。7.8%から6.9%の減額です。この予算というのは25億から21億に下がっております。つまり、教育予算が市として減らしているということは明確ですね。変わりにどうなったかというと、土木費が令和4年8.1%だったものが、令和5年には14.7%に大幅に増額されています。この土木費は道路、公園、街路、皆が使う大切なところですが、土地、区画、住宅、河川これに主に土木費は使われていると単純に考えて教育予算減らしそうじゃないですか。この教育予算、あるいはこの糸満市が一体で年間何にお金を使うかということに関して、決めている最大の責任は市長であります。どうして周りの方もそれを止めなかつたのか私にはわからない。お金がかかるということはわかっておりまし、ましてや教育予算をここまで減額する必要があったのか。限られた予算の中で、高嶺小学校を作らなければならないとなつたときに、当然、国からのお金も必要ですけれども一部補助がなかつたということをおっしゃっていました。そういうことであれば、もっと教育予算を要求する必要があった。それはもう終わって今この段階でやつとわかるのでは駄目なのです。それでもこの同じような令和4年の中でも、他の地域でも同じように教育、別に物価高騰があつても教育予算をかけられたはずです。何も教育委員会が減額にしたから、それが全てだとかではないと思うのですね。つまりその予算、最初に糸満市が教育予算、他の予算を決めるときに、こんなに減らす理由はどこにあったのか。私は不思議でなりません。私からは以上です。
事務局	ご意見ありがとうございます。まず先のご質問の件、ご意見としまして賜りました周知方法につきまして、実際今回の百条委員会に係る報告会につきましては、市のホームページおよび高嶺小中学校区の広報誌と一緒に折り込みし配布と、この二つの手法で周知

	<p>をさせていただきましたが、今ご意見でございました通り保護者さん向けの小学校の通知アプリ等を活用しながらでないと、やはりこの保護者様の皆様の確認が取りづらいというところにつきましては、ご意見としましては、こちらの不手際でございます。大変申し訳ございませんでした。また、基本計画については、今我々全力で取り組みさせていただいております。先ほどございましたスケジュールですとか事業費につきましても、今後地域説明会も含めてしっかりとご説明取らせていただけたらと考えておりますので、その際の周知方法につきましても、現状のご意見踏まえて、保護者様向けの通知アプリ、学校と協力しながら、しっかりと周知徹底を図っていきたいと考えております。</p>
事務局	<p>はいご質問ありがとうございます。先ほどの参考人の証言の件で、21億余りから18億6000万に減額されたという教育委員会から要求がなされているという部分ですけどもこれについてはまず、令和3年9月の補正予算で計上したのが18億6000万です。概ねこの計画ということで、その後、令和4年度の当初予算で21億という金額を予算要求させていただいているけれども、その中で、なぜ18億から20億に上がったのかというような明確にその査定根拠等を、市長の方に説明し理解を得ることがなかなかできなかつたということで、令和3年9月補正予算の際に提出して、その金額と同額程度の予算要求をしたということでございます。</p>
市長	<p>はいご質問ありがとうございます。今の件については、3月の25日から28日に話がありました。これ3月議会においても僕らが提案した予算に関しては議会を通しています。その後議会終了後に3億。1点、申し上げますと、減額したわけではありません。18億6000万から3億減額したっていうことではありません。それは理解していただいて、要求通りでてきたものをつけました。そこから3億円増額するものに関してどのような説明するのですかと説明を求めました。ただ明確な説明がなされなかつたということでございます。もし軟弱地盤でパイルが増加するとか、何かいろんなものがあるのでしたら説明をしていただくことになりますが、その増額の根拠となるような説明がなかつたというのが、正直なところあります。先ほどまたその後に教育予算、建設費がこれだけ上がっているということでありましたけれども、建設に関してはその事業がその年にあるときには、補助額が入ってきますので、それで上がったりします。教育委員会においても、そのときの校舎建設だったり、いろんなものが入ってくると、糸満市以外の市町村もその予算、教育費っていうのはありますけど、上下はしますので安定的なものがどれぐらいっていうか、そこでそれをどれぐらい糸満市の教育に対するっていうのは出てくると思います。ちょっとそこはまた教育委員会が答弁できるのでしたら、協議していただきたいなと思うのです。我々が教育費を下げるとか下げられたとかじゃなくて、僕らは要望上がったところは、財政課含めいろいろ調整しながらしっかりとつけていくと思っております。</p>
市議会議員	<p>はいありがとうございます。八重瀬町だとか豊見城市は、年間予算13%ぐらいつけています。全国にしても、その地方自治体と国、地方に行けば行くほど、教育予算かけているのですよ。全国平均15%って言われているのです。ですが、糸満市は8%止まり。今年少し増えたと言いますが、8%自体そもそも少ないのです。</p>
市議会議員	<p>ちょっと論点がずれていませんか。</p>
市議会議員	<p>教育予算の話をとくにさつたのでそのまま話しています。ですので、もし私、お話をされることであれば、教育予算のそれでは6.9%が正常の範囲かどうかって言いますと私は少ないのでないかなって。ぜひ増やしていただけたら大変ありがたいです。以上です。ありがとうございました。</p>
市議会議員	<p>初めまして。よろしくお願ひいたします。今回の報告会で、この資料をいただいて、見させていただいて、少し整理させていただきたいと思っているのですけれども、まず入</p>

	<p>私がまだ決定していないっていって、この事業に関しての、ロードマップをお示しいただきたいのですけれども、まず今、もう一度この入札を開始するところから、そして何年に完成する予定なのかというところで、事業にかかる期間が決定してくると思うのですけれども、そこをまずお示しいただいた上で、今現在、このロードマップの中で今現時点どこにいるのかっていうのが知りたくてこれがまず質問の1点です。こういった事業に関しては教育費とかそういう課題とか、予算を使って欲しいとかいろいろあるとは思うのですけれど、この事業をするにあたって、この高嶺小学校移転改築事業となっていますので、これがどういった補助金を利用して今後進められていくのかっていうのをまず前提として、説明した上で、皆様聞いた方が聞きやすいのかなと思いましたので、こちら2点です。ご質問させてください。</p>
事務局	<p>今のご意見は、高嶺小学校の開校時期のスケジュール等に関して、ロードマップを提示して欲しいということの意見だと思うのですが、今、高嶺小学校に関しましては、基本計画というものを策定中であります。基本計画を策定するにあたって、各部署の課長クラスの幹事会とか、あとその上に検討委員会っていうのがあります。それは役所の部長職あと学校長、学識経験者とかが入っておりまして、あと地域の代表として区長も入っております。そこでいろいろ検討しているところあります。その中で幹事会、検討委員会だけではなく、地域説明会も行っております。地域説明会に関しましては今回8月に2回開催しております。その中でも報告しているのですが、この基本計画の策定の中にスケジュールと事業費もきちんと作成し、方向性を出します。今現在精査中であります。2回目の地域説明会の方では、きちんと説明するという報告をしております。今精査中という報告をしたのですが、今回、高嶺小学校の敷地に関しましても、中学校の南側に敷地を約2ヘクタールぐらい増やして、そこに小学校中学校を移転するということの計画を検討しているところであります。その件に関しましては、地域説明会でおおむね了解をもらっております。その際に、どうしても用地の購入とか、そこが農地なので農振除外の手続きとかがあります。その手続きのスケジュール等々を、今まででいるところであります。もう少し時間いただきたいんですが、2回目の地域説明会において、スケジュール的な内容を説明して、どういうふうに開校を目指していくという工程を説明したいと思っております。もう少しお待ちください。そのときに説明したいと思います。予算に関しても、今説明したように2回目の地域説明会で説明するということで、予算に関しても、いろいろ今回、文化財の影響や中学校の特別教室棟がちょっと老朽化しているということで、それも踏まえて改築を検討しております。前回の計画では、改築ではなくて改修を考えていたのですけど、改修よりは改築の方が望ましいということで、検討しております。そこら辺の予算の概算事業費も出しているところでありますので、2回目の地域説明会で説明したいと思います。予算に関しては、大変大事なものであります。先ほど説明したように、今の財政部局とも基本計画の段階なのですが、事前に密に調整しております。予算が足りないからできないとか、手戻りがないようにきちんと教育委員会が市長部局と調整して進めているところであります。スケジュールと概算事業費に関しましては、次回の地域説明会、これ高嶺小学校の移転改築事業の基本計画という策定の事業なのですが、その中の2回目の地域説明会でスケジュール・概算事業費については説明を行ないますので、よろしくお願ひいたします。</p>
市議会議員	<p>ご説明ありがとうございます。ロードマップをお示しいただきたいっていって、この件に関してなんですかね、今ちょっと明確な答えは、次回の地域説明会でとのことと認識しました。それを踏まえてですね、私の受け取った感覚は、工事を計画から含めて、完成までには結構時間がかかるのかなというふうに思うのですけれども、スタート地点、工事が始まるのがスタートだったとして、計画がまだ今回の入札不調のこの報告書をもって入札すらまだできていないということなのですよね。それで、この3年で令和10年の開校を目指してとのことなのですけれど、これは時期的に可能なのかどうかっていうところがすごく不安に思っています。で、なぜそれを言うかっていったらやっぱりその間子供たちが危険にさらされたり、環境教育、学びの環境、そういうところにも長い期</p>

	間において影響が出てくるのかなっていうのが、不安なところの一つとして考えられるのですけれども、その間、どういった、その不安を取り除くために、子供たちに、この校内でどういった安全策をやっていくのかっていうのも、また地域説明会等でしっかりと明確にはつきりとお聞かせいただければと思っております。ありがとうございます。
市議会議員	前回の地域説明会で、周知の方法がちょっと足りていなかつたのではないかっていう声があつて、今回また2回目の指摘でありますので、いろいろとですね、今後市民に発信するっていう意味ではやっていただきたいので、今回議事録なり、質問答弁のレポート、いろいろな意見がありましたし、これは市民に広く知ってもらう必要があると思うので、これはぜひ公開していただけないでしょうか？お願いします。
事務局	はい。質問ありがとうございます。地域説明会、今回の報告会、幹事会いろいろあって、その都度、議事録はちゃんと作っております。今回は市長・教育長が同席なのですが、上司の方には、都度その内容をお伝えしております。議事録の公開に関しましてはホームページに公開というよりは、情報開示請求があった際に、開示するような感じで対応させていただければと考えております。
市議会議員	それじゃ全然市民に行き渡らないと思います。これ今後の姿勢だったりこれから取り組みを見せるためには、しっかりとこの場ではどういう意見があったのか、どういう答弁をしたのかそれを説明する必要があると思うので、ホームページに議事録そのまま載せるのが難しいのでしたら、まとめてレポートで公開していただけますでしょうか？よろしくお願いします。
事務局	はい。概要をホームページにて公開してほしいということだと思うのですが、検討していきたいと思います。
市議会議員	ぜひやっていただきやってくださいますよう、よろしくお願ひいたします。周知の方法も、この何回も繰り返すのではなくて、しっかりと全域に公表していただきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。
自治会長	はいすいません、さっきもありましたけど、当初21億余りのものが教育委員会から、その後18億6000万になったという話がありました。その教育委員会、なぜ減額というか、金額を落として18億6000万という数字を出したのか、根拠を聞きたいですが、いかがでしょうか。ごめんなさい。今の教育長は、それをご存知じゃないのですか。私は教育長から聞きたいのですが。事務局の次は教育長が答えてください。お願いします。
事務局	はい。ご質問ありがとうございます。先ほども少し説明しましたけれども、最初に、この事業スタートが令和3年9月の議会です。その際に18億余りの予算を要求させていただいております。これあくまでも概算要求ということです。その後設計が上がりまして21億ということでやっているのですけども、まず市長部局との調整の中で、我々回数を重ねて説明っていうものではなくて、確かに都度説明をしていますけども、それが、なぜ21億になったのかというような端的な説明が我々はできなかつたということで、もちろん物価高騰とともにございます。それから先ほど少し説明しましたけども、一部、補助の対象外があつたということで、この分、補助金が入つてこないということで、そういったものがあつて、事業費を足さざるを得ない。我々としては、要は、国庫補助が入らないので、この分をくださいということも、ただその入らないから増やすじゃなくて、皆さんの方で、自分でどこを削つて減らすという努力はないのか、といってその辺の調整もあります。その中で教育委員会として、市長部局に対して、納得いくような理由を示すことができなかつた。その結果、当初の概算要求の18億余りの予算に至つたというのが、これまでの経緯というふうに考えております。

教育長	<p>はいありがとうございます。21億から18億になったのは、なぜかというところについては、おっしゃる通り私はその要請については全くわからないわけではあるのですけれども、この職について、資料のやり取りの中で見させていただくと、やはり説明ができなかつたところで、そのまま当初の概算要求のものになってきたのかな、というところがあるのかと思っています。ただそれはやはり大きな反省点でありますので、今、先ほどから繰り返してはいるのですけれども、今現段階の計画から、まだ基本計画に向かっている途中なのですけれども、その段階から市長部局とも、それから財政課とも、うちの施設係の方には連携を図っているところでありますので、やはりここは反省点だと深く考えております。以上です。</p>
自治会長	<p>ありがとうございました。ぜひ、人件費や資材費が上がっているわけですから、それは織り込まないといけない。多分、令和3年のころは1ドル144.5円だったと思うのですよ。今157円ですよね。円安になればいろんなものが上がります。輸入している部分が多いですが、日本だから今の物価上昇も円安が止まればもっと安くなります。輸入品が多いわけです。だからそういう円の相場とか、ユーロとの相場、ユーロは170円ですよ。1ユーロを出して日本円で170円です。だから、ヨーロッパや外国から買っているものが多いですから、これは日本政府の方針ですから仕方がないのですけど、輸出産業のトヨタとか、機械とか作っている、こういったところを守ろうという政策があるから、円安は容認なのですよ。要は1ドルで140円しか入ってこないよりは、1ドル157円入ってきた方が、大企業は儲かるわけですよ。だから、トヨタさんは何兆円、純利益が上がるわけです。だからそういう仕組みも敏感にならないといけない。円安が進めば、どんどん資材人件費が高騰する。資材があがると人件費が高騰するのです。だから、我々がスーパーで買うものがどんどん上がる。だからもっと皆さんは、この円安、それからユーロ安、そういったものを見ておかないと、毎日見るぐらいじゃないと駄目です。1週間に1回では駄目です。これも毎日見てれば、それだけ神経研ぎ澄まして何事にも敏感になります。基本は、私が何を言いたかったというと、もっと敏感になってほしいです。そんな、てーげーやさじやないですよ。てーげーは、この前、設計料1億3000万捨てましたよね。皆さんは、いや、全部を捨てていませんよ。使えるものもあります。具体的に1億3000万のうち30万はまだ使えますよ。500万は使えますよと具体的な数字出してください。捨てたでしょと言ったら、皆さん、いや、使える部分もありますよ。1億3000万のうちのいくらは、今の設計に生かされるのですかつてその金額もお示し願えれば、我々は少し理解できるのですよ。そういうのも言わないで、全部が全部捨てたわけじゃないですというふうな話をされますよね。そういうことも言えないのであれば、言わない方がいい。説明できないことは、いや、そうじゃありませんと言わない方がいい。説明できることについて責任を持って男の矜持を持っていかないといけない。以上。</p>
市民	<p>こんにちは、今日、今回初めて参加します。わからないことが多かったですけど、私の方から質問というか、お願いをさせていただきたい。まず、入札不調が2回。どんな形で行われたかという、なぜこのようになったかという事務局の説明で大方が理解できました。正直なところ、大変お粗末だなって気がしました。教育委員会だけではなくて、市長部局、私は行政専門ではありませんけれど、委員会だけでなく、市長部局全ての方の考えが、緩かったのだと。令和2年3年、一般的の建築を建てる方でも、リフォームする方でも工期が伸び、予算が膨らむっていう、一般市民が実感していることを、なぜ市役所の方がもっと強く危機感を持たなかったのかなど、とても残念です。その失敗がもう2度とないように、これから入札に臨んでいただきたいなと思う。それからですねもう1点は、私も子供2人30代ですけど、高嶺小学校を卒業しました。今日も20年前のPTAの方とか、たくさん顔みしづがいますけれども、高嶺地区は教育熱心で地域が学校を支える素晴らしい地域ですね。もう本当にこの間プレハブを見て非常にショックでした。子供たちも東京から帰ってくるたびに、心配で学校に見に行っています。私も職業柄学校に勤めています。よその市町村でも非常に古い校舎もありました。予算をつけて、新築を建てて、校舎が新しくなっている。子供たちを見ていますと、新しい校舎に</p>

	<p>なりますと顔がぱっと明るくなり、学習意欲も高まります。これ本当ですね。もう実際私も見てびっくりするぐらいです。教職員も表情が変わります。全てがうまく回るようになります。なんで私たち高嶺地区の子供たちが、まず危険を除去するというのがまず大事ですけれども、本当にもっと晴れ晴れと学校行くのが毎日楽しいっていう気持ちで登校できないのかなと。1日も早くこういう日が来てほしいと願います。一番危惧しているのは、高嶺地区は高齢化が激しくて若者が少ないことです。そういう中でも、この地区に住みたいって子育て世代が、家を建てたりして、引っ越してきたときに、いや、高嶺小学校には通わされない、ちょっと怖いなって糸満小学校にしましょうとか、真壁にしましょうとか、兼城にしましょうとか、そういう親御さんが出てこないかなって心配です。もしかしたらもういらっしゃるかもしれません。ですから、1日も早く先ほど市長が優先順位は高いですとおっしゃいましたけれども、最優先事項として、一番トップに掲げて、高嶺小中学校の小中一貫教育、ぜひこれだけ子供たちも地域も我慢しているわけですから、こちら小中一貫教育高嶺地区に住みたい、ここで子供学校を出したいっていう、そういう学校をぜひ1日も早く作っていただきたい。今日は地域の人だけじゃなくて、たくさんの市議の方々がこんなに高嶺のことを考えてくださっているのだなと思って心強く思いました。どうぞよろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>ご提言ありがとうございました。小中一貫校の件ですけども、私がこういうふうに言うのは非常におこがましいことですが、当初、開校は令和6年でした。もう既に、1年経っています。これまで入札不調、それから計画変更も2度行っています。その上で非常に厳しい意見もいただきました。教育委員会は、信用できないということもいただいております。ただ私から一点お願いしたいのは、小中一貫を行うには、今、校舎の建設の話が中心ですけれども、実際中身が問題です。小中一貫はやはり中身が伴ってないと駄目なのです。なぜ小中一貫をやるのかというのは、糸満市教育委員会はこの令和元年、小中一貫基本方針を作っています。それは市長部局としても認めていただいている。その小中一貫の基本方針の中に、地域と一緒にやってやっぱり学校を作っていくというのがありますのでこれから先、予算がつけば建物は建ちますけれども、小中一貫教育を進めるにあたっては、やはりその地域の皆様の協力がどうしても必要です。それと今日参加していただいている議員の方々にもぜひご協力いただきたいと思っていますので、我々も信頼回復に努めていますので、ぜひ、地域の皆様方と一緒に小中一貫を作りたいと思っていますので、どうぞこれからもよろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございます。</p>
事務局	<p>本日はお休みのところにも関わらず、皆様いっぱいいらっしゃいまして、大変ありがとうございます。今現状ですね施設係におきましては、説明がありました通り、2度の基本計画の見直しを受けて、再度見直しをとらせていただいている状況でございます。その中では地域皆様の代表でございます区長様を初め、いろんな関係部局の方々、および地域のご意見も加味しながら、計画の方を進めさせてもらっている状況でございます。中でも今回の基本計画の中において、高嶺小中学校移転先であります中学校の敷地南側の用地、そちらの地権者様の方にも我々施設係職員含めて、事前にご挨拶も兼ねて伺わせてもらいまして、何とか子供たちのために学校建設にご協力いただきたいので、調整をとらせてもらっている次第でございます。またこういった用地購入に向けても関係部局と調整しながら、国庫補助金を活用しながら予算獲得に努めさせさせていただいている状況でございます。部長からもございました通り、やはり学校建設、もちろんハード面は我々が考えるのが仕事ではございますけれども、やはりこういった小学校用地ですね、獲得するためにも、まずやはりこの地域の皆様のご理解ご協力が大前提の必要でございますので、今後ともですね調査を初め地域の皆様の方には、ご協力を賜りながら、1日でも早くこの小中一貫校の開校に向けて用地取得に向けて、ご協力を賜っていかなければと思っておりますので、どうぞ皆様にご協力のほどよろしくお願ひいたします。</p> <p>また後日、ご質問などがございましたら糸満市教育委員会教育総務課までご連絡をいた</p>

だければ対応させていただきたいと思います。